

第14章 準備書から評価書への主な変更内容

準備書から評価書への主な変更内容は、表 14-1 に示すとおりである。

表 14-1 準備書から評価書への主な変更内容一覧

環境要素		修正・変更内容	修正・変更理由
全般	—	<p>工事工程を見直した。</p> <p>準備工・後片付け工を除く準備書の工期に、雨休率の増加分（約 1.238 倍）を乗じ算出した。その結果、19 ヶ月→24 ヶ月に工期が延長した。</p> <p>なお、月あたりの建設機械や資材及び機械の搬入に用いる車両の稼働台数は予測に用いた台数よりも減ることとなり、準備書及び本評価書に記載した建設機械の稼働、資材及び機械の搬入に用いる車両の運行に伴う大気質、騒音、振動、温室効果ガス等の予測結果を上回ることはない。</p>	山形県で定めている休日と天候等による作業不能日の年間の発生率を指す雨休率の改定（雨休率：0.67→0.83 改定）のため。
水環境	水質	<p>磷含有量の平常時第 5 回目、No. 3 地点の結果を正しい測定結果（0.26mg/L）に修正した。また、窒素含有量の平常時第 2 回目、No. 3 地点の結果を正しい測定結果（0.84mg/L）に修正した。</p> <p>磷含有量の値は、予測のバックグラウンド値として用いているため、予測結果も正しい値（0.27mg/L）に修正した。</p>	—
	水質	<p>累積的影響について、周辺の既設処分場を追記し、各処分場から河川への放流地点と水質調査地点の位置関係を示し、各施設のモニタリング結果等をもとに適切に評価した。</p>	知事意見による
土壌環境・その他の環境	地形及び地質	<p>対象事業実施区域における地すべりの可能性が低いことを、実際の調査ボーリングの結果に基づき記載した。</p>	知事意見による
温室効果ガス等	二酸化炭素・メタン	<p>建設機械の稼働に伴う CO₂ 排出量を、建設機械の稼働が最大となる時期における月当たりの CO₂ 排出量（16.84 tCO₂/月）に修正した。</p>	—
その他	最終処分場の増設により生じる浸出水量の増加に係る対策	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の浸出水処理施設の能力強化を行わない理由、及びその環境保全措置について、予測・評価し分かりやすく記述した。 ・浸出水処理施設の容量等について、気候変動に伴う極端な集中豪雨にあっても対応ができるように検討を行った。 ・キャッピングのメリットとデメリットについて、可能な限り定量的なデータを用いて予測・評価を行った。 ・キャッピングシートの点検・補修・交換など、維持管理手法について、評価書に数値基準などの指標を用いて具体的に記述した。 	知事意見及び環境影響評価審査会意見による